たまぞの

第149号

令和４年10月１日発行
発行所
長崎大学玉園同窓会
〒850―0029
長崎市八百屋町36番地
☎095-824-5494
発行人
藤木　卓
㈱昭和堂

就任あいさつ

玉園同窓会会長
藤木　卓

長崎大学玉園同窓会は、明治19年（1886年）に長崎県師範学校卒業生により創立された、136年の歴史を持つ由緒ある会です。この度、栄えある同窓会の会長に就任いたしました。教育現場や教育行政等の豊富なご経験を基に会の運営に当たってこられた歴代の諸先輩方の後を引き継ぐことになり、身が引き締まる思いです。どうぞ、よろしくお願いいたします。

私の学生時代は、昭和49年に始まりました。教育学部の中学校教員養成課程工業技術専攻に入学しましたので、少人数で和気あいあいとした雰囲気に、和みました。教室内での絆は強く、農場で栽培した米で餅つき大会をはじめたのが、今に引き継がれています。教科の繋がりは同輩、後輩に及びます。特に県内教職関係では、「長大技術」と言うだけで妙に親しみが湧いたものでした。また学生時代には、講義や演習、実験等での学びに加えて教育系のサークルに所属し、何かを得たいと意気込んだことがあった事を思い出します。意気込みだけは良かったのですが、教育に関する学びそのものよりもサークル仲間とのフォークソング・グループに夢中になり、友人宅やプール横のサークルボックスで練習を重ねては工学祭に出演する等、相当入れ込んだ思い出があります。近くには、その他にもいくつかの教育系サークルがありました。ただ仲間と居るだけで満ち足りていたあの頃、今も続く絆に、無意識のうちに当時の感覚を求めてしまいます。これも、同窓意識なのでしょうか。

多感な学生時代というものは、職業や役職、家柄、性別等の別は無く、他愛も無いことで友と笑い合い、この世の終わりが来たかのような悲しみに沈み、人の生き様や教職への想いについて夜を徹して語り合い、同輩や先輩後輩を含めた人との繋がりに生きる価値を見いだした頃のような気がします。同窓会の意義は、全ての会員がより良い人生を歩むために、育んだ同窓意識を共通項として親睦を深めるとともに、その絆を活かして社会へ貢献することではないでしょうか。教採セミナーの講師あるいは受講生として参加することや、学校代表として校内の会員を取りまとめること、学部原爆慰霊祭に参加すること、会報「たまぞの」に執筆したり発行業務に関わること、地区懇話会で発表したり参加したりすること、会の役員や事務局員として運営に協力すること等、様々な貢献のしかたがあるのだと思います。もちろん、会員を続けることや終身会員へ移行することも立派な貢献です。貴方は、どのような貢献が可能でしょうか？

本会は、明治、大正、昭和の激動の時を経て、昭和43年（1968年）に社団法人長崎大学玉園同窓会、平成26年（2014年）に一般社団法人長崎大学玉園同窓会と、母校との強い絆を保ちつつ発展を遂げてきました。私たちは、これからどのような発展を目指せば良いのでしょうか。変化が激しく先の予測が極めて困難なこれからの時代、AI（人工知能）が搭載されたスマホで、AIにより順位付けられた情報に翻弄され、ゆっくり、しっかり考える機会を手放しているのかもしれません。しかし、これから社会の構成員となっていく若者は、私たちが築いてきたこのディジタル社会で育てられた世代です。そうであれば、共通の土俵であるネット空間を共に使い、時には教えを請いながら、新たな貢献策を一緒に考えて作っていくのも意味があるような気がします。ネット上では、学生時代と同じくフラットですから。

変化の波に乗り遅れ気味の本会ですが、これからはネットを通じて老いも若いも別なく、新たな時代に向かって漕ぎ出します。これまで以上に、会員の皆様の暖かいご支援を期待しています。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

玉園同窓会永遠なれ!!

―退任のごあいさつにかえて―

玉園同窓会前会長　濱崎嘉一郎

退任にあたり、会報「たまぞの」の貴重なページをお借りして、一言ご挨拶を申し上げます。

長崎大学玉園同窓会は、明治19年創立以来１３０年の輝かしい歴史を持っています。

その間には、長崎師範・女子師範・学芸学部、そして教育学部と変遷しながらも会員一人ひとりが「我が学舎はこころのふるさと」を合い言葉に、強い絆と意識で連携協力し、会員の相互親睦や長崎県はもとより我が国の教育の振興を目標に掲げ、日々活動してまいりました。

私は一人の大先輩のことを思い起こされてなりません。

師範学校卒業生で、本同窓会会員で元長崎県知事の久保勘一先輩です。

出身地は五島の三井楽町です。

勘一先輩は貧しいながらも母親をはじめ弟姉たちの固い絆と愛情に支えられて師範学校に進学されました。

在学中は仲間からも「人間勘一」として尊敬されました。

教師としても、子どもたちはもとより、地域を愛し、そして政治家としても教育及び母校の発展に尽力されました。

そんな先輩と同じ母校を持ち、同じ同窓会員であることを誇りに思い、同会創成期の「会員同志の助け合い、感謝、尊敬のこころ」を大切にしながら、同窓会発展のために尽してまいりました。

これからも、会員と事務局が、一丸となって、会員が求める同窓会、会員の揺るぎない母校愛、会員相互の堅い絆が見られる同窓会になりますよう切望しています。

本会は、主に次のような事業を行なっています。

- 県内の小中高校及び特別支援学校への図書購入費助成
- 児童生徒の健全育成を目的として活動している団体への活動費助成
- 教育学部生への修学・就業支援セミナー
- 教育学部生、学業優秀な生徒への『たまぞの賞』の授与

私をはじめ事務局は会員の会費によって、いろいろな事業を計画実践しております。事務局員はボランティアで頑張っています。会費の集まり状態如何がすべてのもとになります。どうぞご理解とご協力をお願いします。

後任の会長には、藤木卓先生がなられます。藤木先生は、長崎大学教育学部部長をしておられた先生で、同窓会会長として、最もふさわしい先生です。これまで以上のご協力をよろしくお願い致します。

最後に私事になりますが、80歳を超え、大腸ガンやコロナの感染による入院等により、初期のファイトが減少しました。皆様にご迷惑をおかけするのが心苦しく思います。

長い間お世話になり、ありがとうございました。

コミュニティ・スクール
～地域運営学校～

地域とともにある学校づくり

長崎市立横尾小学校長
河野正勝

私は、今年度から長崎市立横尾小学校（児童数２７７名）の校長を務めさせていただいています。学力向上と地域とともにある学校づくりを柱に学校経営を進めているところです。

本校は、昨年度より市教委からコミュニティ・スクール（ＣＳ）の指定を受け、地域・保護者・学校の三者で連携し、「横尾っ子」の健全育成を図っています。これから述べることは、前任の松崎邦彦校長先生が推進してこられたＣＳについて、指導していただいたことや学ばせていただいたことが中心となります。ＣＳは、地域とともにある学校づくりを推進するための要だと考えています。

長崎市教委の指定を受けたのは昨年度ですが、本校のＣＳの取り組みは、平成29年度から始動しています。本校は、地域の祭り「横尾まつり」（のべ３千人余りの方々が集まります）が本校体育館を中心に毎年開催されるなど、以前から地域との結びつきがたいへん強い学校です。横尾のコミュニティーの組織や活動も確立されており、様々な団体の皆様が本校の教育活動に協力してくださいます。この地域の教育力を生かし、地域全体で未来を担う「横尾っ子」の成長を支えていこうと、開かれた学校から一歩踏み出し、ＣＳを立ち上げました。学校運営協議会は、年間３回、学期ごとに開催しています。学校経営方針について、承認をいただくとともに、授業参観後の感想や地域との連携、子どもの健全育成など、様々な面から意見を出し合いながら、校長とともに学校経営を推進していただいています。

ここで、学校運営協議会が支える地域と連携した特色ある教育活動を二つ紹介します。

一つ目は、「横尾だんじり」です。古くから横尾地区に伝わる、浮立に似た伝統芸能です。横尾だんじり保存会の方々が、４年生の総合学習の時間に指導してくださいます。伝統芸能の継承です。地域の祭りや学校行事の中で披露する機会があります。保護者、地域の皆様も毎年たいへん楽しみにされています。地域に感謝の気持ちと愛着、誇りをもつことにもつながります。「横尾だんじり」は、従来、豊作祈願・収穫祭などで広く演じられていました。保存会の皆様のご尽力により、ここ数年、昔の道具を用いた田植え、稲刈り、脱穀などの体験もさせていただいています。

二つ目は、「元気野菜づくり」です。西部自治会「生ゴミリサイクル部」の皆様に指導していただいています。給食から出た残菜を「ぼかし」や廃油と混ぜて土に入れ、微生物がいっぱいとなる土づくりから行います。一学期に５年生がその講話を聴き、土づくりを行います。そして、人参、大根、白菜を育てます。１年生と特別支援学級は芋を、２年生は夏野菜を育てます。本当に驚くほどの大きな野菜や芋が収穫されます。収穫や野菜を味わう喜びはもちろんですが、野菜を育てる苦労や地域の方への感謝の気持ちなどについて学ぶことができます。このような豊かな体験活動ができる本校は、恵まれています。それを支えてくださっている地域の皆様には、感謝に堪えません。

ＣＳのメリットは、大きく次の３点であると学びました。①「持続可能」…校長など教職員の異動があっても、学校運営協議会によって地域との組織的な連携・協働体制がそのまま継続できます。②「地域総がかり」…学校や地域でどのような子どもを育てていくのか等、目標やビジョンを地域と共有できます。③「連携・協働」…学校や地域、子どもたちが抱える課題に対して、当事者意識をもち、役割分担をもって連携・協働ができます。

以上、横尾小ＣＳについて述べさせていただきましたが、本校は、まだ様々な課題を抱えています。これまでの取り組みやＣＳのメリットを生かしながら、息の長い地域との連携・協働、地域とともにある学校づくりを、今後も進めていきたいと考えています。

「地域とともにある」時津北小

～学校運営協議会の取り組みから～

時津町立時津北小学校長
白浜弘康

はじめに

時津北小学校は、昭和35年に創立され、当初から関連行事が年間40以上ある地域と関わりが深い学校でした。

本校は、平成29年に学校運営協議会を立ち上げ、時津町で最初のＣ・Ｓ（コミュニティ・スクール）となりました。昨年度は、市町教育委員会への実践発表や文科省主催の事例発表等において、取り組みを発信しました。

熟議（熟慮と議論）

学校運営協議会の構成メンバーは、15名。地域協働本部長・自治会長・シニアクラブ代表・地域支援者・ＰＴＡ会長等多岐にわたります。

話合いには、時津町教育長や長崎大学大学院教授がアドバイザーとして入っていただいています。本校Ｃ・Ｓのテーマである「夢や志をいだき、ふるさとを愛し、ふるさとを拓く人づくり」を合い言葉とし、「地域の子どもは、地域で育てる」取り組みを模索しています。

学校運営協議会では、学校の諸課題についてテーマを絞り、年間５回熟議を重ねます。

あいさつあふれるまちづくり

学校評価の中で、「子どもたちは学校ではあいさつをするが、地域ではしない」という実態が見られました。このことについて、学校運営協議会で熟議を重ねた結果、「地域全体を巻き込むためには、大人も本気にならないといけない」、「それぞれの立場でできることを積み重ねていく」となりました。そして、スローガンについて熟議を重ね、「あいさつは自ら家から地域から心つながる日並・子々川」になりました。

次は、スローガンの広報活動です。看板の設置場所、デザイン、予算が、熟議により決まり、地域の目立つところに設置しました。設置後は新聞社の記事にしてもらいました。子どもたちへの周知も図られ、以前より地域でのあいさつの増加が、各種調査からも分かるようになりました。

Ｃ・Ｓの認知度を上げる取り組み

スローガンが、学校運営協議会委員の自信とやる気を向上させました。新たな取り組みは、Ｃ・Ｓを地域の方々に知ってもらう取り組みです。

一つ目は、ポスター作りです。学校がデザインを作成し、教育委員会が印刷をして、地域の回覧板に常時掲載しています。

二つ目は、委員によるあいさつ運動です。定期的なあいさつ運動をとおして、地域の方々のＣ・Ｓへの関心を高め、関心のある方に説明し、理解者を増やす取り組みです。加えて、横断幕とのぼりを作成し、広報に力を入れました。これにより委員の知り合いの方々からＣ・Ｓについての質問も受けるようになり協力の輪が広がってきています。

熟議を深めるために

学校運営協議会の活動を充実させるためには、委員の方々に学校をよく知ってもらう必要があります。フリーパスの名札をお渡しし、いつでも学校に来ていただけるようにしています。また、子どもたちが、委員の方々を覚えるように、写真を掲示しています。さらに、学校運営協議会長と地域協働本部長（地域コーディネーター）とは、会あるごとに入念な打合せや学校の詳細の説明をしています。学校をよくわかってもらうことで、誤解が理解に変わったことも多くありました。

学校運営協議会の役割の一つに、学校経営方針の承認があります。昨年度末の承認の際には、学校経営方針を詳しく説明しました。それを受け、少人数グループで行った活発な熟議は、経営方針の理解と各自の役割の自覚につながっています。

成果と課題

成果は、①保護者・地域住民からの支援②子どもたちの生活態度の安定③地域の方の学習支援による学力向上。

課題は、①委員の方の人選や地域協働本部の組織作り②教職員、地域・保護者のＣ・Ｓに対する意識向上。

おわりに

今回は、質問を多く受ける内容を中心に紹介しました。質問やご意見など、ご連絡いただければ幸いです。

わたしの教育実践

「心の記録」をとおして

長崎市立桜が丘小学校　松本　紘（いと）

私は現在、6年生担任と生活指導主任という、身に余る校務を頂き、慌ただしくも充実した毎日を過ごしています。

一学期のはじめは、最高学年としての期待にあふれた子どもたちのエネルギーに応えようと必死で、「とにかく凛とした雰囲気でいよう」「厳しくしなければ」と焦っていました。自分が口にする言葉が、気持ちの込もっていない上滑りのものになっていたことも沢山ありました。

このままでは子どもとの心の距離がどんどん離れてしまうと思い、週末課題に「心の記録」という取り組みを取り入れました。「心の記録」は、担任と自分の間のみのやりとりで、先生に伝えたいこと、悩み等を自由に書いていいとしました。時々お題を出して、自分の気持ちを書きやすいように工夫しました。そして、毎回の記録に7～8行は必ず返事を書きました。一学期間続けてみると、学校生活だけでは見えない子どもたちの様子をたくさん知ることができました。1年生との仲が深まってきてうれしい子や、40才までの人生設計を熱弁してくれる子、習い事で友だちとの別れがあり、心が不安定な子など、様々でした。

「心の記録」をとおして、子どもたちは、学校生活や人との関わりの中で、沢山のやりがいや葛藤を感じているのだと知りました。その中で、最高学年として前に立ち続ける労力は相当なものだろうと痛感しました。

最初は、厳しく律する担任でいなければとばかり思っていました。しかし、一学期をとおして、子どもの折々の気持ちに出来る限り寄り添い、背中を押してあげることも担任の大きな務めだなと思うようになりました。素直で活気あふれる子どもたちのおかげで、また一歩、教師として成長することが出来たように思いました。

社会人3年目で、まだまだ未熟な私ですが、たくさんの先生方や子どもたちに支えて頂き、有難いなぁと思います。これからも初心を忘れず、学び続ける教師でありたいです。

自ら考え出す面白い理科を目指して

島原市立第三中学校　松田彩葉

「やった！次、理科だ！」そんな声が響く度に嬉しくなり、「今日も授業をがんばるぞ！」と意欲をかきたてられる自分がいます。先日実施された全国学力調査で、本校の生徒は理科が「好き」「どちらかといえば、好き」と答えた生徒が94・1％でした。身近な物事を探求するにあたって「楽しい！」「面白い！」という素直な感情は非常に大切だと思います。そのために、私が授業づくりにおいて意識していることが三つあります。

一つ目は、本物を提示すること。準備や片づけが非常に大変。大学の先生に連絡を取り、本物の生物をいただくことも。気温や湿度によっては現象を上手に見せることができないこともあります。しかし、そういった失敗も含め、生徒に本物を提示することで興味関心が高まり、生徒自ら疑問を抱きやすくなります。そして、その疑問をそのまま授業の課題にすることで、生徒は「なぜだろう」と自然と考え始めるのです。

そこで二つ目が、生徒の疑問をそのまま課題「めあて」にすること。これまで立てた「めあて」は「自転車で坂を下るとき、こがずとも加速するのはなぜだろうか」、「シュークリームは体の中でどうなっていくのだろうか」など。生徒の身近な出来事から生じた疑問であるため、「めあて」が生徒の心に落とし込みやすい。そのような、身近な問いを授業の「めあて」とする授業づくりを継続することが大切だと考えています。

三つ目は、私自身の専門知識を向上させること。理科教員でありながら、未熟なところがたくさんあります。そのため、長崎大学で実施されている「物理教材講座」や長崎県理科教育同好会主催の「自然観察会」など様々な勉強会に積極的に参加するようにしています。

これからも「理科が面白い！」そう思ってもらえるような教科経営に努めます。

あの人は、今・・・

川柳と私

東彼杵郡川棚町　中原　達郎
（昭和38年卒）

新聞の文芸欄に投稿を始めたのは２０１５年の秋でした。句歴７年、まだまだ若輩者です。その頃私は、のめり込んでいた陶芸に体調不良から陰りが見えていた時でした。それなら川柳でもと、甘い考えでとりかかりました。五七五の形式すら整えようとせず、ただ闇雲に投稿してくる私に思い余られたのでしょう。選者の先生がご指導のお手紙をくださいました。主催される同好会への入会も誘ってくださいましたが、体調が悪くなって行く毎日でしたからお断りいたしました。私が苦手とする推敲などを学ぶ機会を逸したと、残念に思っています。

当初、週１回三句投稿するのですが、余り苦労しなかったように思います。皆様が苦労されるところを飛ばして形ばかりの句でしたから。それでもボツボツ掲載されるようになりました。常連の方々の句の良さも少し分かるようになりました。

ところがそのうち、週１、三句の投稿が重荷になってきました。いわゆるスランプです。丁度、掲載された句が１００句をすぎたあたりでしたから、量的に軽い時事川柳にしぼることにしたのです。毎朝、新聞に目を通し、世間の風を感じるよう努めている毎日です。

○子や孫につけを残すか核の事故
（初の掲載句）

○ぞうさんを歌えた孫に目を細め
（評をいただいた句）

○マスクとり胸いっぱいに春の風

○墓守りの心ミゲルに陽を当てる

○眠れたか戦さ起こりし国の子は

○月こうこう焦土と化した街照す

お釣りの使い途

長崎市　森川　恒雄
（昭和53年卒）

小学校教員を終えて、現在、大学の非常勤講師を勤めています。いわゆるお釣りで就いた職です。

担当する授業は、全て一から手作りのため、これまで身に付けた教育理念を発揮できる場になり、遣り甲斐を覚えているところです。授業はどうしても実技中心となりますが、表現させっぱなしにならないように心しています。

そのやり方の一つが、鑑賞重視です。一切欠点を指摘せず、いいところのみをカードに書かせ、ノートに貼らせています。作品は廊下に展示し、多くの人に観てもらっています。作品を観たシスターからは、個性が溢れていて楽しいという評価を得ています。学生は、他者に認められるので、恥ずかしさよりも嬉しさが優ると言っています。

もう一つが、ノートづくりです。実技にノートは要らないと言われそうですが、より確かな学びのためには必要であると考えます。板書を写すだけではなく、使用した教具、授業で分かったことや考えたこと、課題に残したことなど、丁寧なふり返りをさせ記録する。更に、作品を撮った写真を貼付し、表現の思いや感想を書き添えさせています。

このように、鑑賞とノートを重視することで、表現の喜びを確かな学びへと高めています。

私の教師人生は、ふり返ると、実習の指導教官との出会いから始まったように思います。

卒業後は、指導教官と各審査会や授業研究会などで同席する機会に恵まれ、多くを学ぶことができました。特に、夜の会でその人となりに触れたことが一番大きく、成長に繋がっています。

私がそうであったように、大学生の時に進路が定まる学生は少なからずいます。その大事な時期に、造形教育を通して、人真似ではなく、自分の頭で考えたことを、自分がよしと決めたやり方で表現することは、混沌とした社会を生きる力になりうることをそれとなく伝えている今日この頃です。

母校だより

心を豊かに、平穏に

長崎大学教育学部長　藤本　登

梅雨のイメージが変わりそうな天候で作物の成長が気になる所である。二月下旬に始まったロシア共和国のウクライナ侵攻はグローバル化した世界を嘲笑うかのようで、何ともやるせない。エネルギー問題について研究してきた私としては、欧州やサハリンの天然ガスの問題はついに来たかといった思いではあるが、食糧危機をはじめ、多方面での影響は想像以上である。また中国の対応による国際的なパワーバランスや、サプライチェーンへの影響は計り知れず、多くを輸入に頼る我が国に取っては極めて深刻な状況にある。大学もエネルギー資源価格の高騰や電力の入札不調もあって、八月以降は電気代が大幅な値上げとなり、附属学校と教育学部の電気代は一千万円程度増える見込みである。私たちの家計も大変であるが、日本全体もエネルギーの視点で再度歴史から学ぶことが必要である。

歴史と言えば、国語の前田桂子教授（国語学）から小値賀町藪路木島の歴史や方言を記録した「義民中山四衛門翁伝　方言短歌集」を紹介頂いた。これは昭和四七年に無人化した同島の文化や歴史を記録されている古川初義さんの自費出版物であるが、私が住む地域の高齢者が使う言葉に似た部分も多く面白い。内容はまさに今話題のエネルギー問題である。江戸時代の薪の問題が扱われているが、このようなエネルギー問題は、ペリー来航、八幡製鉄所の操業、日露等の戦争、オイルショック、そして福島第一原子力発電所の事故に至るまで常に存在し、最近ではそれに温暖化等の環境問題が加わる。長崎の原爆被災者の救護活動に全精力を傾注された永井隆博士は、「原子爆弾救護報告」の中で、「原子爆弾の原理を利用し、これを動力源として文化に貢献できる如く更に一層の研究を進めたい。転禍為福。世界の文明形態は原子エネルギーの利用により一変するに決まっている。そうして新しい幸福な世界が作られるならば、多数犠牲者の霊も亦慰められるであろう。」と記している。

二〇〇九年に本学で行ったワークショップで、長崎大学病院永井隆記念国際ヒバクシャ医療センター（現、福島県立医科大学教授）の大津留晶医師は、講演「チェルノブイリから学ぶこと」の最後に、寺田寅彦の「天災は忘れた頃にやってくる」と警鐘を鳴らしている。いずれも字面で理解するのは簡単だが、背景や当人の思いを考えるとなかなか真意をたどるのは難しい。

ところで、身近な問題である新型コロナウイルス感染症は、オミクロン株になって、幼児と高齢者が主な注意対象者となった。一般的な感染対策を十分に行いつつ、経済活動と両立させるという。附属学校では、大学と協力して感染拡大を抑制しており、子ども達の学びを止めることなく、学級・学校運営ができている。これは、昨年のデルタ株の際に行われた四日間のオンライン授業の経験が大きい。しかし、通常の診療がなされない医療現場の状況、後遺症の不安に加えて、七月に双子の孫が生まれた自身の経験から考えると、やはりこの感染症の怖さは侮れない。このような状況にあって、昨年来、玉園同窓会にはフェイスガードの提供等でお世話になり、教育実習や授業で大変役に立っている状況を見るに、改めて感謝の念を抱くところである。学生は授業や実習で大変な苦労をしているが、社会に出た時に、この経験で感じ、考え、行動したことを強みにしてほしい。

今（８月初旬）、一月から始まった教員採用試験の特別講座が二次試験対策という佳境を迎えている。コロナ禍の影響でお盆明けからは対面からオンラインでの面談に切り替わりそうである。ご協力頂いている玉園同窓会の皆様、本学退職教員の方々、就職委員会の先生方に対して、心から御礼を申し上げる。学生諸君の夢が結実することを切に願うばかりである。

最後に、令和四年四月一日に二名の実務家の先生方が、着任された。人間発達講座に林田和喜教授（社会）、山下桂子准教授（数学）、である。今後のご活躍を願う。また、七月一四日から玉園同窓会長になられた藤木卓氏をはじめとする役員・事務局の皆様には、今後一層のご支援を頂ければと思う。そして、濱崎嘉一郎氏をはじめとする旧役員の方々には、長きにわたりご支援を頂くとともに、卒業式には「玉園賞」の贈呈と温かい祝辞を頂いた。ここに心から感謝申し上げる。世界が平穏に、また皆様がご健勝でご活躍されること、学生や子ども達が笑顔で日々を送ることを切に願う。

令和４年度 総会報告

日　時　令和４年７月10日
場　所　長崎県教育会館
　　３階大会議室

会長挨拶

第一号議案（令和３年度の事業報告及び決算報告・監査報告）

１　事業報告

(1)令和３年度教育学部入学生及び卒業生（３月）に対し、入会案内文書配布

(2)３月退職予定者に、終身会員への入会案内を発送

(3)会報の発送（年２回）

①　会報１４７号

○「特別支援教育」
県立諫早特別支援学校長　田中昭二
佐世保市立相浦西小学校長
　　金子圭一
五島市立奥浦中学校長　森実樹人

○私の教育実践
長崎市立戸町小学校　江原由美
諫早市立郡中学校　月川由季
大村市立郡中学校　杉浦賢司
新上五島町立有川中学校
　　土井中美絵

②　会報１４８号

○新学習指導要領の具現化
「プログラミング教育」
長与町立長与南小学校長　鳥山勝美
長崎市立西北小学校　江副和生
「ＧＩＧＡスクール構想」
長崎大学附属小学校　橋元良太
長崎大学附属中学校　山中典希

○私の教育実践
長崎市立諏訪小学校　長田七海
南島原市立堂崎小学校　荒木優花
五島市立福江中学校　平田千佳

(4)一般社団法人としての公益事業の充実

○修学・就業支援事業

①　音楽、美術教育奨励事業及び優等生表彰事業

②　教育セミナー事業
・就職に関する指導助言
・教育公務員採用受験者への指導助言・模擬授業、面接試験の受け方指導

○学校図書購入助成事業
小学校４校、中学校１校助成

○児童、青少年育成事業
瑞宝太鼓（瑞穂町）

(5)決算及び監査報告は原案通り承認

第２号議案（令和４年度事業計画案と予算案の審議）

(1)総会・理事会
理事会（６月14日）
総会（７月10日）

(2)会誌の発行
２回発行（１４９号、１５０号）

(3)その他の事業は令和３年度事業を踏襲

(4)会員向けネットサービスの向上及びデジタル化による業務の改善と効率化を目指す。

第３号議案（玉園同窓会役員）

○濵崎会長、野中常務理事の退任の意向表明を受け、審議、承認
後任の新会長として、藤木卓理事、常務理事として江口洋理事を推挙
７月14日臨時理事会を開催
先の総会の決議を受け、新役員の選定を審議、決定した。

※収支決算書及び予算書は次ページに掲載

役員の紹介
―令和４年度―

（任期　令和４年７月14日～令和６年度理事会選定日）

（顧問）
藤本　登
小田　恒治

（参与）
小西　峯一
宮地　計
山﨑　滋夫

（法人理事）
◎（会長理事）藤木　卓
（副会長理事）池田　浩
（法人理事）中嶋　将晴
（　〃　）中川　幸久
（　〃　）野田　和宏
◎（　〃　）青嶋　秋男
（　〃　）森　浩司
（　〃　）上西　誠
（　〃　）池田　敏彦
（　〃　）濵田　浩一
◎（　〃　）古野　祐一
◎（　〃　）山本　圭介
（事務局長）江口　洋

（監事）
牛津　武聰
竹市　保男

※◎は新任　無印は再任

敬称略

令和３年度　収　支　計　算　書（令和３年４月１日から令和４年３月31日）

（単位：円）

科　　目	予算額	決算額	差　異	備　　考
1. 収入の部				
(1) 入会金収入	400,000	405,000	−5,000	入学者180名、5,000円×81名
(2) 会費収入	2,300,000	2,186,027	113,973	1,000円×2,105名、1,027円×１名（一般） 5,000円×16名（終身）
(3) 雑収入	10	5	5	
(4) 繰入金収入	2,700,000	2,950,000	−250,000	基金会計より繰入
当期収入合計(A)	5,400,010	5,541,032	−141,022	
前期繰越収支差額	379,369	379,369	0	
収入合計(B)	5,779,379	5,920,401	−141,022	
2. 支出の部				
(1) 事業費	2,903,200	2,218,041	685,159	会報発行・公益事業関係含む
(2) 管理費	2,836,179	2,855,044	−18,865	借料・光熱費など
(3) 固定資産取得購入支出	0	0	0	
(4) 繰入金支出	40,000	50,000	−10,000	退職積立金特別会計
当期支出合計(C)	5,779,379	5,123,085	656,294	
当期収支差額(A)−(C)	−379,369	417,947	−797,316	
次期繰越収支差額(B)−(C)	0	797,316	−797,316	

令和４年度　収　支　予　算　書（令和４年４月１日から令和５年３月31日）

（単位：円）

科　　目	予算額	前年度予算額	差　異	備　　考
1. 収入の部				
(1) 入会金収入	400,000	400,000	0	入学者180名、5,000円×80名
(2) 会費収入	2,300,000	2,300,000	0	1,000円×2,200名（一般） 5,000円×20名（終身）
(3) 雑収入	5	10	−5	
(4) 繰入金収入	3,000,000	2,700,000	300,000	基金会計より繰入
当期収入合計(A)	5,700,005	5,400,010	299,995	
前期繰越収支差額	797,316	379,369	417,947	
収入合計(B)	6,497,321	5,779,379	717,942	
2. 支出の部				
(1) 事業費	2,893,200	2,903,200	−10,000	会報発行・公益事業関係含む
(2) 管理費	3,280,222	2,836,179	444,043	借料・光熱費・ネットページ費など
(3) 固定資産取得購入支出	273,899	0	273,899	パソコン購入費など
(4) 繰入金支出	50,000	40,000	10,000	退職積立金特別会計
当期支出合計(C)	6,497,321	5,779,379	717,942	
当期収支差額(A)−(C)	−797,316	−379,369	−417,947	
次期繰越収支差額(B)−(C)	0	0	0	

動いています同窓会

就職支援事業

教育・研修部による教育セミナー支援事業を、本年度も、次の要領で実施しました。

・期　日　7月25日～8月12日
・場　所　長崎大学教育学部
・内　容　教員採用２次試験対策支援として、模擬授業・個人面談・集団討議・小論文
・人　数　延べ１０２３名

開　講　式

令和４年度 図書購入費助成事業

・雲仙市立土黒小学校
・対馬市立厳原北小学校

雲仙市立土黒小学校

対馬市立厳原北小学校

教育学部慰霊の日

長崎は8月9日、原爆投下から77回目の「原爆の日」を迎えました。平和公園では、平和祈念式典が営まれました。

我が文教キャンパスでは、例年営まれていました「教育学部原爆慰霊祭」は、本年度も、コロナ感染拡大防止の観点からやむなく中止となりましたが、慰霊碑にお花を供え、会長はじめ会員、教育学部の教職員の方々、原爆投下時刻11時2分に黙とうし、お線香をあげ、御霊に哀悼の意を捧げ、恒久平和を祈りました。

本年度も、教育学部の教職員の方々には、大変お世話になりました。

事務局だより

よろしくお願いいたします

7月10日に実施しました総会において、役員改選が行なわれました。

それに伴い、事務局員も新しい局員に代わりました。

事務局長に江口　洋（昭42年卒）
会計担当に青嶋秋男（昭54年卒）
広報担当に尾﨑俊輔（昭38年卒）

新会長のもと、会員の方々に喜ばれ、魅力ある同窓会になるよう取り組みたいと考えています。

どうぞよろしくお願いいたします。

お知らせとお願い

事務局の都合により、「月曜日、同窓会事務局を休みにさせていただきます」。

問い合わせ、電話等、何かとご不便をおかけしますが、どうぞご了承くださいますよう、お願いいたします。

会費納入のお願い

今回も会費納入についてお願いいたします。

(1)会費　一人年額　1、000円
(2)納入期限　本年11月末日

尚、会費を2年間滞納した場合は、会員名簿から削除されますので、ご承知おきください。（会報「たまぞの」131号参照）